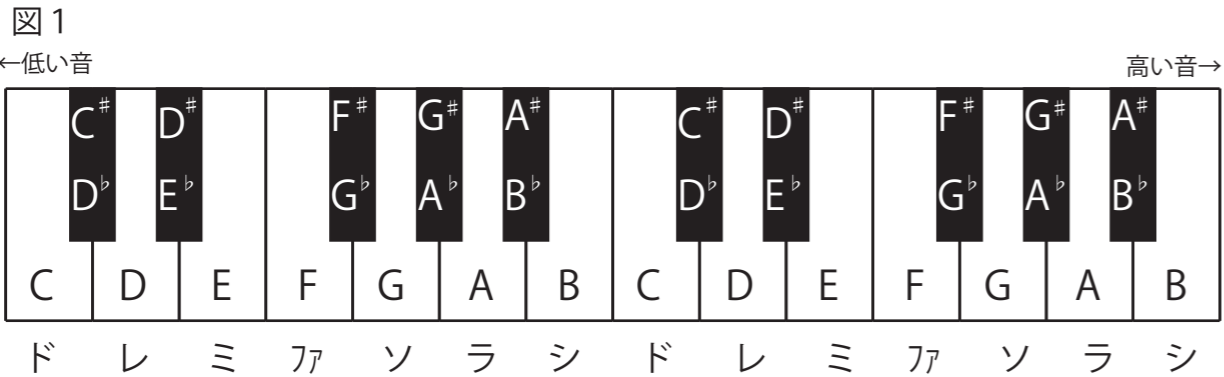


音楽用電子チューナーを使って調絃してみよう！

お箏の調絃をする際に、現在は音楽用電子チューナーが安価で購入できるので、まずは音楽用電子チューナーを利用し調絃してみましょう。以下、略してチューナーと書きます。

前提知識としてドレミ…という音階名がそれぞれアルファベットで何になるかを知る必要があります。下記の図1がピアノの鍵盤とアルファベット音名の対比図です。



次にそのアルファベット音名だけ抜き出したのが図2となりますが、ここでちょっと注意することがあります。



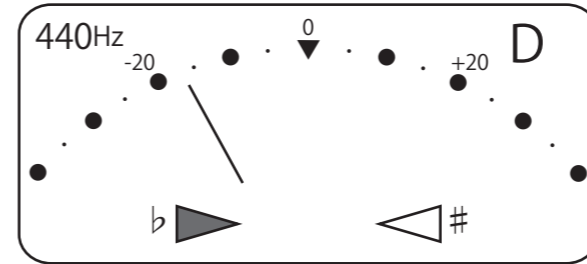
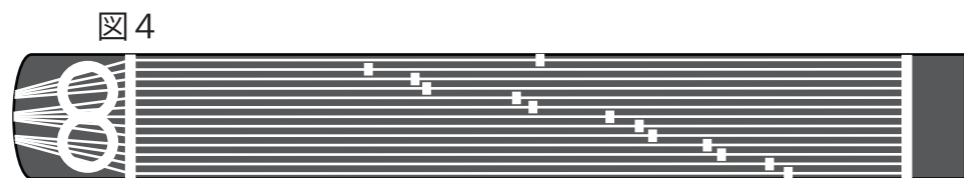
チューナー上ではアルファベット音名で音を拾って表示されるのですが、図2の下のような形で12音表示されます。D^bやG^bなどは表示されずC[#]やF[#]と表示されることとなります。その点を注意して調絃してみましょう。

D^bが必要な場合はチューナー上ではC[#]に合わせればよいということです。

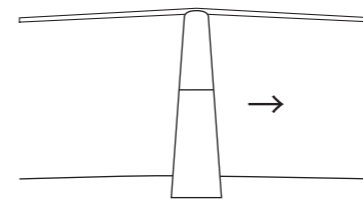
※すべてのチューナーにあてはまる仕様ではないと思いますがおそらく多くの市販品にあてはまると思います。

お箏の調絃で一番一般的な壱越平調子（いちこつひらぢょうし）を五線譜とABC表記で表すと図3のようになります。

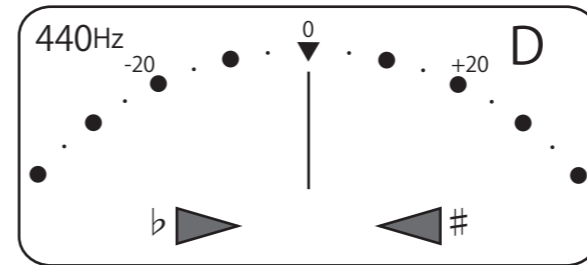
壱越とはD音の和名にあたります。箏柱の位置のおおよその位置はだいたい図4のような感じになります。



さて、実際にチューナーを使ってみましょう。左図はDの音より少し低い状態です。この場合、どうしたらよいでしょうか。

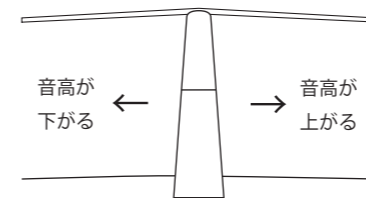


調絃している絃の箏柱を右に動かします。この際、箏柱を倒さないように箏柱下部の空間に届くくらい深く持ってください。



メーターが中央になればOKです。この際、^bのライトも[#]のライトも点灯したり、中央にきた時用の緑色のライトが点灯するものなど様々なチューナーがあります。

※実際は中央付近でメーターがゆらゆらすることもありますが、とりあえず中央あたりに自分で持って行ければまずは良いと思います。



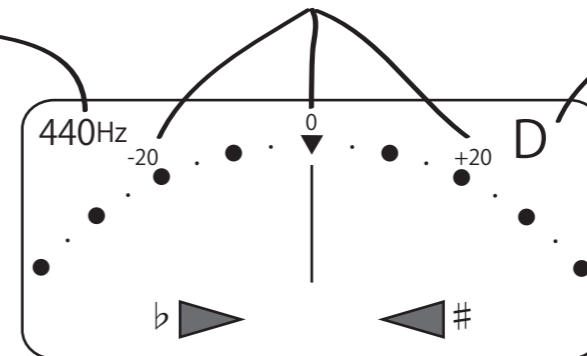
箏柱は右に動かせば音高が上がり、左に動かせば音高が下がります。

チューナーを使うことで音高を可視化できるので初心者でも安定して調絃がとれるようになりました。実際やってみると色々たいへんなこともありますが、まずはとにかく挑戦してみましょう！

画面の見方の補足♪

音高の基準を A=440Hz としているという表示。チューナーに「CALIB」というボタンがあり、そのボタンで上下可能。現在の国際基準は 440Hz ですが、442Hz もよく使われます。一緒に合奏する人と統一しておきましょう！

半音の間を 100 分割したセント値の数字。0 がぴったり、-20 は 20 セント低いということ。とりあえず 0 をめざしましょう。



音名がアルファベットで表示されます。良いチューナーになると 3D とか 4G とか数字つきで音の高さをより正確に表記してくれます。